
好きって何？

漣香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
好きって何？

【Nコード】
N2257BA

【作者名】
澪香

【あらすじ】
友達がいらない、嫌われ者の安藤重と謎の転校生の水谷太陽がえがく短編恋愛ストーリーです。

私の名前は安藤董^{あんどうすみれ}

今年から中学生になるんだけど、教室の雰囲気もあんまり変わらない

小学のときと中学では全く同じメンバーでちょっとうんざりしている

ていうか、そもそも私には友達がいらない

友達と何をするの？あんまり変わらないじゃん！

皆にも嫌われてるみたいだし別におもしろいことなど起きるはずがない！

「今日は転校生が来てます」

ドアが開き一人の男が教室に入ってくる

「水谷太陽^{みずたにたいよう}です。よろしくお願いします」

太陽くん…心臓がなぜかバクバクしている。

私は感情というものが理解できない…いや、理解したくない！

「えっと董さんだね。よろしく」

太陽くんは、なぜか私の隣の席だった。

「うん…よろしく」

久しぶりに学校で声を出した気がする。

「太陽くん、この人、嫌われてるから話しかけないほうがいいよ！」

前の席の女子が、太陽くんに注意した…本人の前で言うな。

「ええーなんで嫌われてんの？可愛いじゃん！」

そんなの言われたの初めてだ、いつも「なんか話せよ！」って皆にいじめられてんだぞ！

「私と話すといじめられる…怖くないの？」

私が半分くらい勇気を出して言ってみた。

「なんで怖いのか？よくわかんねえー、俺、董のこと可愛いと思ってるよ？」

キョトンとした顔で太陽くんは言う。

「いじめられるんだよ…怖くないの？」

私はだんだん感情的になってきた。

「董となら、怖くないな！」

なっ！

「どうして？」

「皆の前で言っているのか？」

いつの間にか、太陽くんの目は真剣になっていた。

「じゃあ、休み時間…」

「OK！」

これで話は終わった。

心臓がずっとバクバクと止まらない。

「授業はじめるぞー」

先生が教室に入ってきた。

一時間目は数学だった。

私は超苦手教科の数学で、ちょっとテンションは下がっていた

「じゃあ…この問題が分かる人！」

昨日の授業の復習だ。

「はい！」

太陽くんは一番最初に手を挙げる。

「おっ、水谷君！」

「えっと、女の人が二人で三時間だから一人あたり」

「正解！」

スゴい！このクラスは数学が得意で有名なのだ…私を除いてだが。

「おおーすごい」

クラスはザワザワしている。

太陽くんは椅子に座る。

「太陽くん！スゴいね！私、数学苦手だから…」

思わず言ってしまった…私らしくない。

「やっぱり董はかわいいなあー」

ポーと太陽くんはこちらを見る

「そんなことないよ！太陽くん、もてるでしょ！」

「ない、ない、だって理想の子がないもん！」

キンコーンカンコーン

「理想かぁー」ボソリとつぶやきながらも私は、席で一人、本を読んでいた

「いたいた、探したんだぞ！」

太陽くんが勢いよく教室に走ってくる。最初からココにいたんだけど…

「俺の気持ち…ぶつけていいんだよな！」

真剣の目でこちらを見る…目が放せない

「う…うん」

どうせ、嫌われるんだろう、今までもそうだった。

「す…」

「す？」

なんで「す」なんだ？

「す…好きだ！童は俺が守るから！」

「なっ！なんで」

「一目惚れってやつ？」

いきなり告白された…

「返事は明日でいいから！」

太陽くんはそういうとリュックを背負って帰ろうとしていたので手をつかんだ。

「今…今じゃダメかな…」

自分の顔が急に顔が真っ赤になったのが、分かる。

「ああ、」

「わ…私も！」

私は好きという感情がどんなものか分からなかったが、きっとこの胸の苦しみと嬉しさが好きって感情なのだろう。

太陽くんも私も顔は真っ赤だった。二人しかない教室には私も心臓の音が鳴り響いていた。

「一緒に帰ろっ」

太陽くんは私の手をギュッとつかみ、歩き出す。

「な…なんで…一緒に帰るって…」

「董は俺が守るって言っただろ！」

そのまま、学校を出て外へ出た。もう夕日が出ている。

私達は、誰もいない公園で二人、ベンチに座った。

「じゃあ、また明日！」

太陽くんが、帰ろうとしたのを、また手をつかんだ。

太陽くんがこちらを向く。

「太陽くん、私、好きって気持ちがあった」

私はそういうと、自然と目をとじる。

「俺も…」

私と太陽くんは夕日にてらされ、この先もずっとずっと永遠の愛を誓った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2257ba/>

好きって何？

2012年1月5日19時48分発行